

# 新しい学習指導要領について



## 今後の学習指導要領改訂に関するスケジュール

	26年度 (2014)	27年度 (2015)	28年度 (2016)	29年度 (2017)	30年度 (2018)	31年度 (2019)	32年度 (2020)	33年度 (2021)	34年度 (2022)
幼稚園		中教審における検討		周知・徹底	30年度～全面実施				
小学校				周知・徹底	教科書検定	採択・供給	使用開始	32年度～全面実施	
中学校				周知・徹底				33年度～全面実施	
高等学校					周知・徹底				34年度～年次進行で実施

東京オリンピック  
パラリンピック

中教審諮問 26・11・20

論点整理 27・8・26

審議まとめ 28・8・26

答申 28・12・21

改訂 29・3・31

改訂 30・3・31

移行期間

教科書検定

採択・供給

使用開始

特別支援学校学習指導要領(幼稚園及び小学部・中学部)についても、平成29年4月28日に改訂告示を公示。  
特別支援学校学習指導要領(高等部)についても、高等学校学習指導要領と一体的に改訂を進める。

## ○中学校卒業後の約98%の者が高等学校に進学

→高等学校教育を通じて、一人一人の生徒の進路に応じた多様な可能性を伸ばし、**その後の高等教育機関等や、社会での活動へと接続させていくことが期待**される。

## ○選挙権年齢の18歳以上への引き下げ

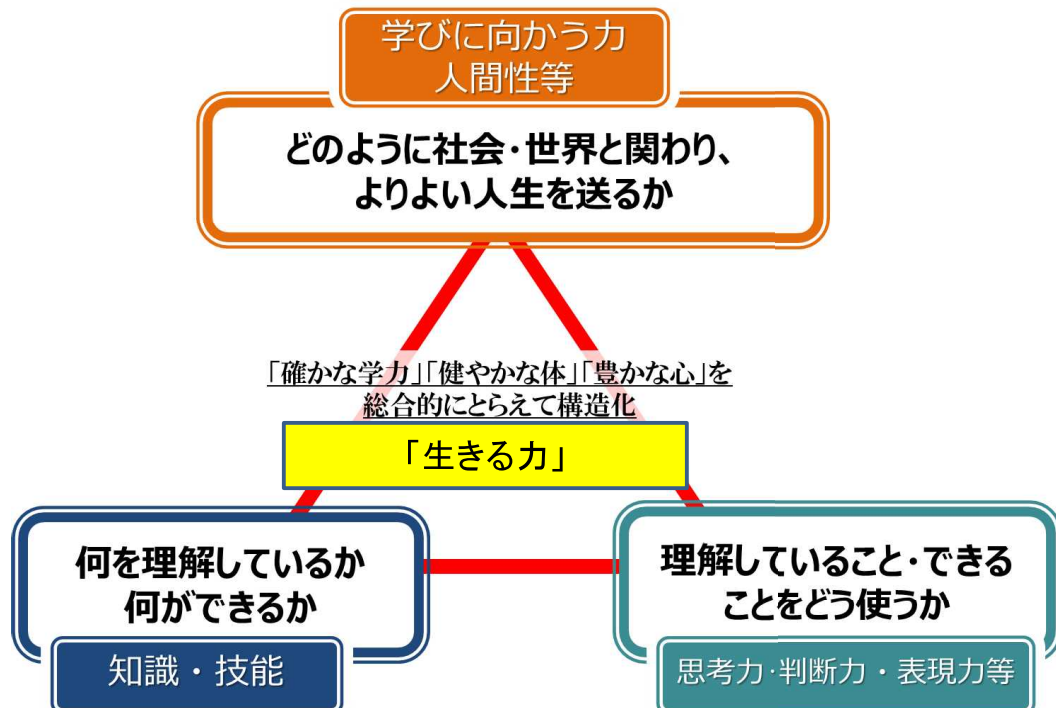
→社会で求められる資質・能力を全ての生徒に育み、**生涯にわたって探究を深める未来の創り手として送り出していくことがこれまで以上に強く求められる。**

## ○大学入学者選抜や資格の在り方等といった外部要因によりその在り方が規定されてしまい、目指す教育改革が進めにくい

→**今回の改訂は高大接続改革やキャリア教育の視点で学校と社会の接続を目指す中で実施されるものであり、特に高等学校にとって、これまでの改訂以上に大きな意義を持つもの**

2

## 資質・能力の3つの柱



中教審答申(H28.12抜粋)

「知識や技能は、思考・判断・表現を通じて習得されたり、その過程で活用されるものであり、また、社会との関わりや人生の見通しの基盤ともなる。このように、資質・能力の三つの柱は相互に関係しあいながら育成されるものであり、**資質・能力の育成は知識の質や量に支えられていることに留意が必要**である。」

3

# 学習指導要領の規定例

## 【数学 I (抜粋)】

### (4) データの分析

データの分析について、数学的活動を通して、その有用性を認識するとともに、次の事項を身に付けることができるよう指導する。

#### ア 次のような知識及び技能を身に付けること

(ア) 分散、標準偏差、散布図及び相関係数の意味やその用い方を理解すること

(イ) コンピュータなどの情報機器を用いるなどして、データを表やグラフに整理したり、分散や標準偏差などの基本的な統計量を求めたりすること。

(ウ) 具体的な事象において仮設検定の考え方を理解すること。

#### イ 次のような思考力、判断力、表現力等を身に付けること。

(イ) 目的に応じて複数の種類のデータを収集し、適切な統計量やグラフ、手法などを選択して分析を行い、データの傾向を把握して事象の特徴を表現すること。

(ウ) 不確実な事象の起こりやすさに着目し、主張の妥当性について、実験などを通して判断したり、批判的に考察したりすること。

## 【現代の国語 (抜粋)】

### 2 内容

#### 〔思考力、判断力、表現力等〕

#### B 書くこと

(1) 書くことに関する次の事項を身に付けることができるよう指導する。

ア 目的や意図に応じて、実社会の中から適切な題材を決め、集めた情報の妥当性や信頼性を吟味して、伝えたいことを明確にすること。

イ 読み手の理解が得られるよう、論理の展開、情報の分量や重要度などを考えて、文章の構成や展開を工夫すること。

ウ 自分の考えや事柄が的確に伝わるよう、根拠の示し方や説明の仕方を考えるとともに、文章の種類や、文体、語句などの表現の仕方を工夫すること。

エ 目的や意図に応じて書かれているかなどを確かめて、文章全体を整えたり、読み手からの助言などを踏まえて、自分の文章の特長や課題を捉えなおしたりすること。

4

## 主体的・対話的で深い学び（「アクティブ・ラーニング」） の視点からの授業改善について（イメージ）

「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を行うことで、学校教育における質の高い学びを実現し、学習内容を深く理解し、資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的（アクティブ）に学び続けるようにすること

### 【主体的な学び】

学ぶことに興味や関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しを持って粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる「**主体的な学び**」が実現できているか。



主体的な学び  
対話的な学び  
深い学び

学びを人生や社会に  
生かそうとする  
学びに向かう力・  
人間性等の涵養

生きて働く  
知識・技能の  
習得

未知の状況にも  
対応できる  
思考力・判断力・表現力  
等の育成



### 【対話的な学び】

子供同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えること等を通じ、自己の考えを広げ深める「**対話的な学び**」が実現できているか。



### 【深い学び】

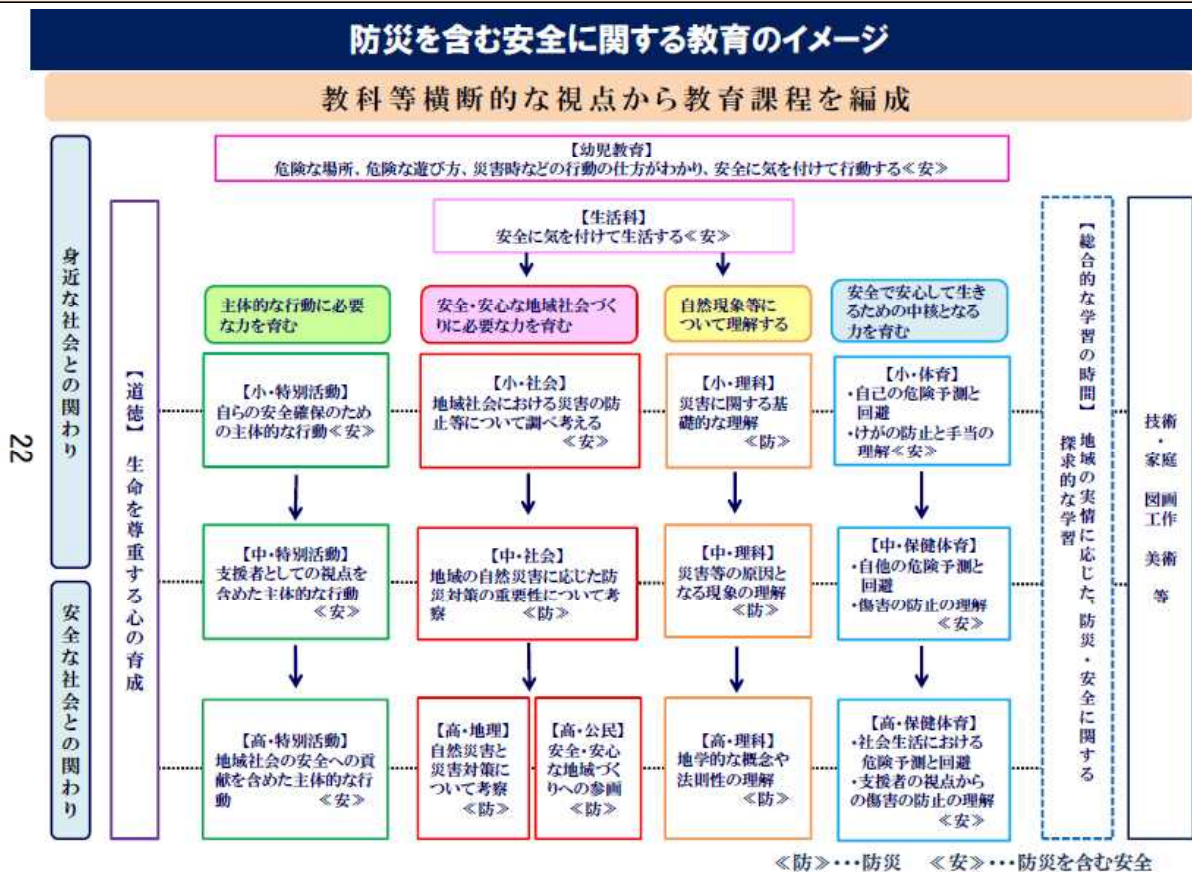
習得・活用・探究という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう「**深い学び**」が実現できているか。

5

- ① 各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた教科横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列していく。
- ② 教育内容の質の向上に向けて、子供たちの姿や地域の現状等に関する調査や各種データ等に基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立する。
- ③ 教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源も含めて活用しながら効果的に組み合わせる。

【事例（側面①）】

「安全」をテーマに、教科等横断的な視点で育成を目指す場合のイメージ  
 （H28. 12 中央教育審議会 答申資料）





# 高等学校の数学・理科にわたる探究的科目 —「理数探究基礎」、「理数探究」—

## 1. 背景

中央教育審議会答申において、将来、学術研究を通じて**知の創出をもたらすことができる創造性豊かな人材の育成**を目指し、そのための基礎的な資質・能力を身に付けることができる**数学・理科にわたる新たな探究的科目**の設定が提言されたことを受けて新設。

## 2. 新科目の基本的な考え方

・数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせるなどして働かせ、**探究の過程を通して、課題を解決するために必要な資質・能力を育成**。  
 ・様々な事象や課題に**知的好奇心や主体性**をもって向き合い、**教科・科目の枠にとらわれない多角的、複合的な視点**で事象を捉える力などを養う。  
 ・粘り強く考え行動し、**課題の解決や新たな価値の創造に向けて積極的に挑戦しようとする態度**などを養う。

## 3. 新科目の概要

※以下の2科目で構成

### 内容

#### 基礎を習得する段階

- 探究の意義や過程についての理解や研究倫理についての理解
- 事象を分析するための基本的な技能、課題を設定するための基礎的な力、探究の過程を遂行する力、探究した結果をまとめ、適切に表現する力などを育成

#### 探究を深める段階

- 生徒が興味・関心等に応じて主体的に課題を設定
- 「理数探究基礎」で学習する内容に加え、多角的、複合的に事象を捉え、課題を設定する力や探究の過程を整理し、成果などを適切に表現する力などを育成

### 学習過程の例

#### 探究の手法について学習

教師の指導のもと、観察、実験、調査など、数学的な手法や科学的な手法を用いて探究

#### 研究倫理についての理解のための学習

生徒が興味・関心等に応じて主体的に課題を設定

観察、実験、調査など、数学的な手法や科学的な手法を用いて探究

探究の過程を振り返る機会を設け、意見交換や議論を通して質の向上を図る

大学や研究機関、博物館などと積極的に連携・協力

探究した結果や探究の成果などについて報告書などを作成

## 4. 新科目の履修のあり方

・「理数探究基礎」又は「理数探究」の履修をもって**総合的な探究の時間の一部又は全部に替えることが可能**。  
 ・「理数探究基礎」及び「理数探究」は選択履修科目であるが、**理数に関する学科においては、原則として「理数探究」を全ての生徒が必修**。

10

## 情報科の科目構成・内容

### 「情報Ⅰ」（共通必修科目）

問題の発見・解決に向けて、事象を情報とその結び付きの視点から捉え、情報技術を適切かつ効果的に活用する力を育む科目

(1) 情報社会の問題解決	情報と情報技術を活用して問題を発見・解決する方法や情報モラル、情報と情報技術の適切かつ効果的な活用と望ましい情報社会の構築などについて考察する。
(2) コミュニケーションと情報デザイン	効果的なコミュニケーションを行うために、情報デザインの考え方や方法に基づいて表現する。
(3) コンピュータとプログラミング	プログラミングによりコンピュータを活用するとともに、モデル化やシミュレーションを通して問題の適切な解決方法を考える。
(4) 情報通信ネットワークとデータの利用	情報セキュリティを確保し、情報通信ネットワークを活用するとともに、データを適切に収集、整理、分析し、結果を表現する。

全ての生徒が、プログラミング、ネットワーク(情報セキュリティを含む。)やデータベース(データ活用)の基礎等について学ぶ

(参考) 現行の科目構成

「社会と情報」 情報機器や情報通信ネットワークの適切な活用、情報化が社会に及ぼす影響の理解等を重視	「情報の科学」 情報や情報技術の活用に必要な科学的な考え方、情報社会を支える情報技術の役割の理解等を重視
--	---

いずれか1科目を選択必修

現状の課題

「情報の科学」を履修する生徒の割合は約2割(約8割の生徒は、高等学校でプログラミング等を学ばずに卒業する)であるなど、情報の科学的な理解に関する指導が必ずしも十分ではない。

生徒の卒業後の進路等を問わず、情報の科学的な理解に裏打ちされた情報活用能力を育むことが重要。

### 「情報Ⅱ」（発展的な内容の選択科目）

「情報Ⅰ」において培った基礎の上に、問題の発見・解決に向けて、情報システムや多様なデータを適切かつ効果的に活用し、あるいはコンテンツを創造する力を育む科目

(1) 情報社会の進展と情報技術	情報社会の進展と情報技術との関係を歴史的に捉え、将来の情報技術と情報社会を展望する。
(2) コミュニケーションとコンテンツ	文字、音声、静止画、動画等を組み合わせたコンテンツを、情報デザイン及び社会に発信したときの効果や影響も考慮して制作する。
(3) 情報とデータサイエンス	データサイエンスの手法により、多様かつ大量のデータを基に、現象をモデル化し、分析し、その結果を読み取り、解釈し表現する。
(4) 情報システムとプログラミング	情報システムを開発の効率等に配慮して設計するとともに、情報システムを構成するプログラムを制作する。
(5) 情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探究	情報Ⅰ及び情報Ⅱで身に付けた資質・能力を総合的に活用し、情報と情報技術を活用して問題の発見・解決に取り組み、新たな価値を創造する。

11

### 3. 学校・協議が担う業務の明確化・適正化

#### (3) これまで学校・教師が担ってきた代表的な業務の在り方に関する考え方

##### ① 学習評価や成績処理

学校教育法施行規則により作成が義務づけられている指導要録については、観点別（「知識・理解」、「技能」、「思考、判断、表現」、「関心・意欲・態度」）に学習評価を実施することが現行制度上求められており、これに伴う定期テストの問題作成・採点、通知表・調査書・指導要録の作成等の学習評価、それに伴う成績処理については教師が行うべき業務である。

その一方、学習評価や成績処理に関する業務のうち、宿題等の提出状況の確認、簡単な漢字・計算ドリルの丸付けなどの補助的業務は、教師との連携の上で、単なるボランティアではないサポートスタッフ等の積極的な参画を考えていくべきである。

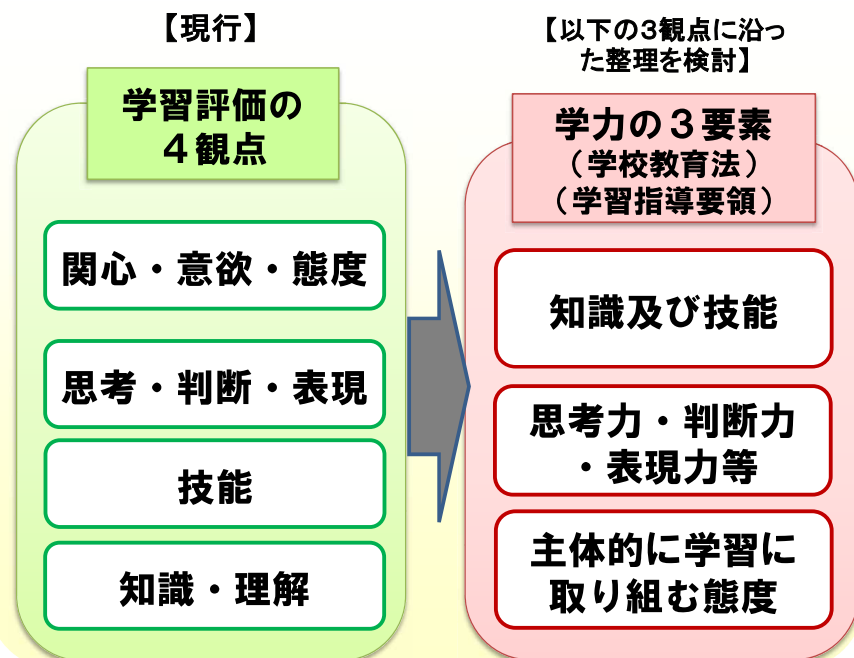
また、教育委員会において、学習評価や成績処理に係る事務作業の負担軽減のため、ICTを活用する環境の整備を図るべきである。

新しい学習指導要領の下における学習評価の在り方については、現在中央教育審議会初等中等教育分科会教育課程部会において専門的な検討を進めており、検討を通じて、指導要録の参考様式の大幅な簡素化も含め、効果的で教師に過度な負担をかけることのない学習評価を実現することが必要である。

## 観点別学習状況の評価について

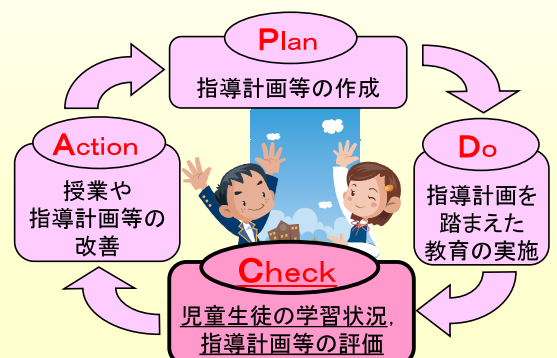
- 学習評価には、児童生徒の学習状況を検証し、結果の面から教育水準の維持向上を保障する機能。
- 各教科においては、学習指導要領等の目標に照らして設定した観点ごとに学習状況の評価と評定を行う「目標に準拠した評価」として実施。  
⇒きめの細かい学習指導の充実と児童生徒一人一人の学習内容の確実な定着を目指す。

### 学力の3つの要素と評価の観点との整理



### 学習指導と学習評価のPDCAサイクル

- 学習評価を通じて、学習指導の在り方を見直すことや個に応じた指導の充実を図ること、学校における教育活動を組織として改善することが重要。  
**指導と評価の一体化**



指導に関する記録

学校名		区分\学年				
		1	2	3	4	
		学年				
各教科の学習の記録						
教科	観点	1	2	3	4	
国語	知識への関心・意欲・態度					
	話す・聞く能力					
	書く能力					
	読む能力					
	言語についての知識・理解・技能					
	社会	社会的事象への関心・意欲・態度				
		社会的な思考・判断・表現				
		観察・資料活用の技能				
		社会的事象についての知識・理解				
		算数への関心・意欲・態度				
数学	数学的な考え方					
	数量や図形についての技能					
	数量や図形についての知識・理解					
理科	自然事象への関心・意欲・態度					
	科学的な思考・表現					
	観察・実験の技能					
生活	生活への関心・意欲・態度					
	活動や体験についての思考・表現					
	身近な環境や自分についての気付き					
音楽	音楽への関心・意欲・態度					
	音楽表現の創発工夫					
	音楽表現の技能					
図画工作	造形への関心・意欲・態度					
	知覚や構想の能力					
	創造的な技能					
家庭	家庭生活への関心・意欲・態度					
	生活を創発工夫する能力					
	生活の技能					
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度					
	運動や健康・安全についての思考・判断					
	運動の技能					
総合的な学習の時間						
小計						
合計						

評定・修得単位数

指導要録の参考様式 (高等学校)

総合的な学習の時間の記録				
学年	1	2	3	4
総合的な学習の時間の記録 (文章記述)				
特別活動の記録 (文章記述)				
総合所見及び指導上参考となる諸事項				
第1学年				第4学年
第2学年				第5学年
第3学年				第6学年
第4学年				
出欠の記録				
学年	授業日数	出席停止日数	欠席日数	出席日数
1				
2				
3				
4				

総合的な学習の時間の記録 (文章記述)

特別活動の記録 (文章記述)

総合所見及び指導上参考となる諸事項

出欠の記録

指導に関する記録

学校名		区分\学年					
		1	2	3	4	5	6
		学年					
各教科の学習の記録							
教科	観点	1	2	3	4	5	6
国語	知識への関心・意欲・態度						
	話す・聞く能力						
	書く能力						
	読む能力						
	言語についての知識・理解・技能						
	社会	社会的事象への関心・意欲・態度					
社会的な思考・判断・表現							
観察・資料活用の技能							
算数	算数への関心・意欲・態度						
	数学的な考え方						
	数量や図形についての技能						
理科	自然事象への関心・意欲・態度						
	科学的な思考・表現						
	観察・実験の技能						
生活	生活への関心・意欲・態度						
	活動や体験についての思考・表現						
	身近な環境や自分についての気付き						
音楽	音楽への関心・意欲・態度						
	音楽表現の創発工夫						
	音楽表現の技能						
図画工作	造形への関心・意欲・態度						
	知覚や構想の能力						
	創造的な技能						
家庭	家庭生活への関心・意欲・態度						
	生活を創発工夫する能力						
	生活の技能						
体育	運動や健康・安全への関心・意欲・態度						
	運動や健康・安全についての思考・判断						
	運動の技能						
総合的な学習の時間の記録							
小計							
合計							
特別活動の記録							
内容	観点	1	2	3	4	5	6
児童会活動	児童会活動						
	クラブ活動						
	学校行事						
総合的な学習の時間の記録							
小計							
合計							
出欠の記録							
学年	授業日数	出席停止日数	欠席日数	出席日数			
1							
2							
3							
4							
5							
6							

観点別学習状況

特別の教科 道徳 (文章記述)

外国語活動の記録 (文章記述)

総合的な学習の時間の記録 (文章記述)

特別活動の記録 趣旨に照らして十分に満足できる状況にある場合には○をつける

評定

指導要録の参考様式 (小学校)

行動の記録															
項目	学年	1	2	3	4	5	6	項目	学年	1	2	3	4	5	6
基本的な生活習慣								思いやり・協力							
健康・体力の向上								生命尊重・自然愛護							
話す・聞く能力								勤労・奉仕							
書く能力								公正・公平							
読む能力								公共心・公徳心							
言語についての知識・理解・技能															
総合所見及び指導上参考となる諸事項															
第1学年											第4学年				
第2学年											第5学年				
第3学年											第6学年				
出欠の記録															
学年	授業日数	出席停止日数	欠席日数	出席日数											
1															
2															
3															
4															
5															
6															

行動の記録

総合所見及び指導上参考となる諸事項

出欠の記録